IoTデバイス活用マニュアル

センサ種類:加速度センサ

型番: ADXL-345

ストーリー:ラップトップPCに加速度センサを取り付けてPCの稼働時間を算出する。



1. Arduinoのプログラムの変更

ライブラリの読み込みとコードの変更箇所

ライブラリのダウンロードと読み込み

下記ページからライブラリの zip ファイルをダウンロードする

https://github.com/Seeed-Studio/Accelerometer ADXL345

※「↓Code」>「Download ZIP」を選択

ダウンロードした zip ファイルを Arduino のスケッチに読み込む。

「スケッチ」>「ライブラリをインクルード」>「.ZIP形式のライブラリをインストール…」を選択すると表示されるダイアログにて上でダウンロードした zip 形式のファイルを選択する。



ø 犯款設定、デバイスキーの書き換え

WiFi の SSID、パスワードを入力する Azure IoThub で発行されたデバイスのプライマリ文字列を該当箇所に反映する



2. Stream Analyticsのクエリ変更

センサーから取得した3軸のデータを個別に格納する

クエリの説明

```
SELECT
   Dev as device,
    DATEADD(hour, 9, EventEnqueuedUtcTime) as time,
   params.espvalue as value,
   params.espvalue2 as value2,
    params.espvaluex as valuex,
                                       3軸の値を取得
    params.espvaluey as valuey,
    params.espvaluez as valuez,
    params.duration as duration
INTO
    outputpowerbi
FROM
    inputiothub
```

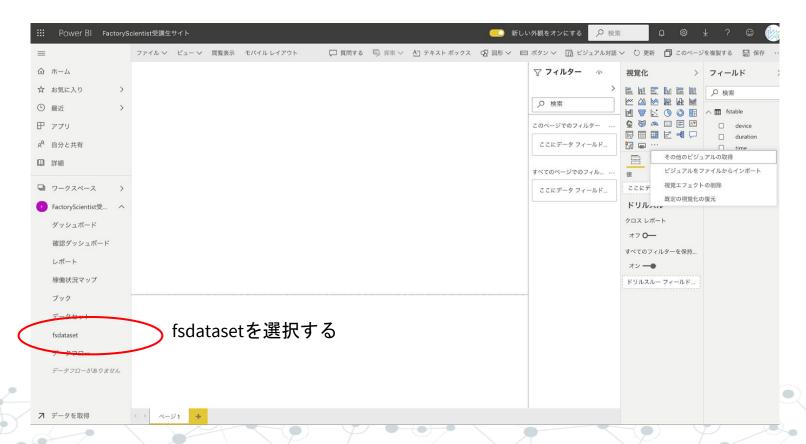
StreamAnalytics での入力テストの例

{"Sensor":"3-axis Accelerator", "EspValueX":-0.86193, "EspValueY":0, "EspValueZ":-0.30037, "duration":60} "hamanaka3axis"

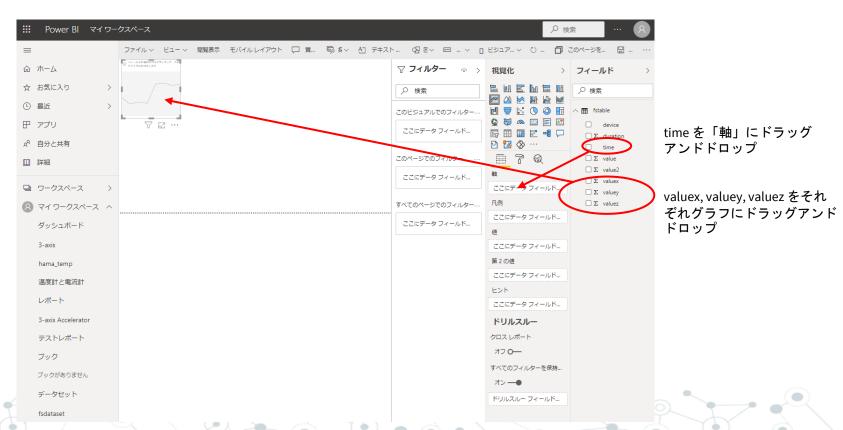
3. PowerBIでのレポートの作成

グラフを利用してセンサーの向きを 知る

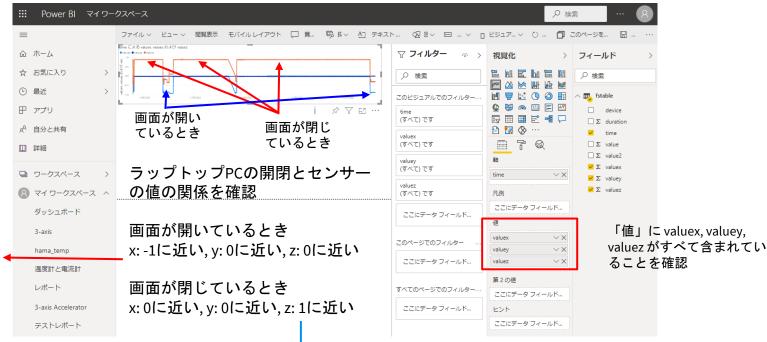
データセットを開く



「折れ線グラフ」を選択



「折れ線グラフ」を選択



※センサーの取付 方向によって値が 異なるので、注意 を要する

valuex と valuez に注目して稼働時間を割り出す

「テーブル」を選択



「テーブル」を選択



開いているとき: 「このビジュアルでのフィルター」で デバイスとvaluexを絞り込み duration を積算



閉じているとき: 「このビジュアルでのフィルター」で デバイスとvaluezを絞り込み duration を積算

それぞれのテーブルを任意のダッシュボードにピン留めする

ピン留め先のダッシュボードを確認して テーブルにタイトルをつける

